

2. 事業の目的と概要	
(1) 事業概要	<p>ビエンチャン県において、中等学校の図書館整備を通して、学校図書館の設置を推進すると共に、県内の学校図書館・図書室* の連携を構築して読書推進活動の強化を図る。</p> <p>*「図書館」独立した専用建物「図書室」空き教室に設置されたものをさす</p> <p>-----</p> <p>This project aims to promote school libraries through setting up a school library in secondary schools in Vientiane Province. The project further aims to strengthen reading promotion activities by establishing coordination among school libraries in the Province.</p>
(2) 事業の必要性と背景	<p><u>(ア)事業実施国における一般的な開発ニーズ</u></p> <p>ラオス政府は、第8次国家社会経済開発計画(2016～2020年)で、前期中等教育の純就学率の目標を85%とし、前期中等教育の修了者の90%は後期中等教育に進学する目標を掲げている。また、教育の質と公平性の改善を重点項目に掲げ、初等教育の質の改善を達成するため、ラオ語能力の向上のため図書室設置の重要性を強調。同時に、地域住民による参加型学校計画策定と学校課題の解決に向け、学校及び村教育開発委員会(VEDC)を含むコミュニティの能力強化を打ち出している。</p> <p>ラオス教育スポーツ省(以下、教育省)は、読書環境の整備を重視し、図書館・図書室整備を学校の設置基準としている。現在、小学校約9千校のうち約800校に図書室が設置されてきた。また、近年初等教育支援の大きなプロジェクトが増加しており、教科書以外の図書も配付される機会が増えてきた。しかし、中等学校では約1,500校のうち図書室が設置されているのは100校と極めて少ない。中等学校は、ラオス社会の中堅となる人材を育てる役割を担っているが、このままでは、社会発展に必要な知識、技術、意欲を持つ人材を育成できない。</p> <p><u>イ)なぜ申請事業の内容となったか</u></p> <p>【先行事業の成果と課題】</p> <p>当会は1991年からラオス政府が進める読書推進活動に協力し、これまで約3,000の小学校への図書セット配付、300校の小中学校において図書室整備を行うと共に、約5千人の教員に対し研修を実施してきた。県・郡の教育指導官もトレーニングし、学校での図書活動が継続かつ安定的に行われるようサポート体制を整備してきた。</p> <p>2014年度日本NGO連携無償資金「中等学校の図書館整備事業」により、ビエンチャン都内2か所の中等学校において図書館整備を実施した。1,700冊の蔵書を持ち、閲覧スペースのある独立した図書館を設置することで、生徒が図書を借りるのみでなく、読書や学習ができる場とすることができた。開設後の統計によると、1日あたり平均、ポイントン中では80～190名(全校生徒の8～12%)の利用がみられる。教員が図書を用了授業を実施して、生徒の授業理解度が増したという報告もある。</p> <p>利用者数は当初のこちらの期待を上回る数値となった一方で、限られた時間に多くの生徒が利用しようとするため、閲覧・自習スペースが不足し、広いスペースの要望が強くなること分かった。さらに、団体として成果の持続性を確保する仕組みの構築に取り組む必要があると考える。</p> <p>【事業地と対象校の選択】</p> <p>候補校の中から、ニーズが高く、設置後の管理運営を村教育開発委員会とともに積極的に担う体制があり、さらに県内の学校図書館・図書室の連携を構築して読書推進活動の強化を図る事業目的にかなう3校を選定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポンサイ中等学校(ボンホーン郡) 生徒 1,038人 教員 52人 ・ サカ中等学校(ボンホーン郡) 生徒 950人 教員 44人 ・ ヒンフープ中等学校(ヒンフープ郡) 生徒 932人 教員 46人

ポンホーン郡は、ビエンチャン県の中心部に位置し、県の行政機関が多くある。県全体への波及効果を期待し、県内の教員が参考にできる学校図書館のモデル図書館を整備したいと、県教育局から強い要請があった。県教育局によると、県内の小中学校 510 校のうち図書室が整備されているのは 193 校である。さらに首都にある団体事務所から行政機関にアクセスしやすく、コミュニケーションがとりやすい点を考慮した。

ヒンフープ郡は、首都から車で 3 時間ほどのところに位置し、同県の中では少数民族の割合が高い。中等学校 1 年生のドロップアウト率は全国平均 8.1% に対し、郡平均は 13.1% と高い。また、4 年生までの前期中等課程を修了する割合は、全国平均が 71.8% なのに対し、34.8% と大きく下回っている。教育環境が不十分な地域で図書館が設置され、学習環境が整うことで、教育が改善する可能性を示す例としく考えている。

【1 年次 2 年次の事業の経過】

第 1 年次・2 年次は、ポンホーン郡およびヒンフープ郡教育スポーツ局 (DESB)、ポンサイ中等学校、サカ中等学校、ヒンフープ中等学校それぞれの村教育開発委員会 (VEDC) と当団体が、本事業にかかわりそれぞれの責任と役割を明記した協定書を締結することができた。また、各 DESB と VEDC に研修を実施し、VEDC が学校図書館活動をサポートする合意が形成され、関係機関との協働枠組みを構築した。更に、建設した 3 校の各図書館は、研修を受けた担当教員 5 名と図書ボランティアの生徒 15 名により運営される。図書館を開設して 2 年目にあたるポンサイ中等学校には、応用研修を実施し、図書館活用ならびに読書推進の更なる深化と定着を図っている。

事業最終年となる第 3 年次は、1 年次 2 年次で開設した学校図書館が教員や生徒に積極的に活用され、かつ適切に運用されるように、VEDC が学校と連携して、図書館経営・運営について自主的に支援する体制を定着させる。また、DESB が各校の図書館や VEDC の状況を見守りアドバイスする体制を定着させることで、事業終了後も学校図書館が持続的に発展し、同郡内の他の学校にも図書館活動が広がり、子どもたちの学習環境の質が向上することを目指したい。

● 「持続可能な開発目標 (SDGs)」 との関連性

目標 4 「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」に該当する。具体的には、ラオス国の教育計画によるより質の高い初等中等教育と修了率を高めるための教育環境としての学校図書室機能の整備及び、教育内容を充実させるために教員や生徒の図書館活用力を高める研修を行うことを目標とする。(細分化ターゲット 4.1 および 4.6 の具現化)

ジェンダー平等	環境援助	参加型開発／ 良い統治	貿易開発	母子保健	防災
2: 主要目標	0: 目標外	1: 重要目標	0: 目標外	0: 目標外	0: 目標外
栄養	障害者	生物多様性	気候変動 (緩和)	気候変動 (適応)	砂漠化
0: 目標外	0: 目標外	0: 目標外	0: 目標外	0: 目標外	0: 目標外

● 外務省の国別開発協力方針との関連性

対ラオス国別援助方針では「(3)教育環境の整備と人材育成」として、「社会経済開発の鍵となる人材を育成するため、教育環境の整備、教員の質と学校運営の改善を支援する」とある。当事業は教育環境の整備であるとともに、教員が授業で図書館を活用することで、教育の質の改善にも繋がる。

(3) 上位目標	ビエンチャン県において、図書館活動が広がることにより子どもたちの学習環境の質が向上する	
(4) プロジェクト目標 (今期事業達成目標)	<p>ビエンチャン県内の3か所の中等学校に建設された図書館が適切に運営され、図書館活動が定着する</p> <p>ビエンチャン県内の3か所の中等学校に設置した図書館が、村教育開発委員会(VEDC)や郡教育スポーツ局(DES)のサポートのもと持続的に運営される</p>	
(5) 活動内容	<p>1) 読書推進活動の応用研修</p> <p>サカ中等学校及びヒンフープ中等学校2校において、図書館活動定着のために以下の活動を実施。</p> <p>1-1 学校教員10名及び図書館ボランティア生徒15名を対象に、3日間の図書館利用を促進する研修を実施する。図書の分類・配架や図書館展示について、授業・教科学習における図書活用についてなど、図書館が持続発展していくためのプログラムを、現地関係者自身で作成できるようにする。</p> <p>本研修の内容は、ラオスの学校図書館では未発達分野で、本事業において中等学校教育に効果的な成果をもたらす図書館づくりを目指すべく、新たな試みとして取り組んでいる。そのため研修の実施にあたっては、1～2年次から引き続き、図書館学の専門家である下田氏のアドバイスを受けて組み立てる。また、研修実施時には下田氏を派遣し、直接現地で指導する機会を設ける。</p> <p>研修実施の際、現地の気候や衛生状況等を考慮し、参加者講師スタッフに対し、飲料水のボトルを1日1人1本ずつ支給する。(以下、活動2～4の研修や会合の実施時と同様に支給する)</p> <p>また、研修内で実施する、参加型ワークショップに必要な、模造紙、テープ、筆記用具などの消耗品を準備する。学校は十分な材料を所持していないことから、研修成果を達成するために必要な教材を提供する。</p> <p>2) モニタリング</p> <p>2-1 県・郡教育局、各村教育開発委員会(VEDC)メンバー約15名に図書館の意義と可能性を考える参加型ワークショップを実施。実施サポートのために専門家の小林氏を派遣する。(成果2を効果的に生み出すために活動を追加。)</p> <p>2-2 3か月に一度の割合で各学校からVEDCに提出される図書館運営報告書を確認する。更に報告書提出後に、VEDCとDESと共に学校を訪問し、運営状況のモニタリングをおこなう。(書類提出はラオスの学校や役所の通常業務と同じ間隔としたいという現場要請があり、2か月に一度から3か月に一度に変更。)</p> <p>2-3 建設した図書館の建築確認および事業の進捗確認のため、設計監理をおこなった建築家であり、本部事業統括の野口を派遣する。(2年次の建設の際現地に渡航することができない状況で、現場での確認が十分にできなかったことから、竣工検査時の補修事項の現場確認等のために、派遣を追加。)</p> <p>3) 学校と地域の連携による図書館活動推進イベントの開催</p> <p>ポンサイ中等学校、サカ中等学校、ヒンフープ中等学校3校において、学校と地域の連携による学校図書館の持続的運営のための基盤構築を目的とした以下の活動を実施。</p> <p>3-1 対象校3校の各学校図書館で、学校とVEDCの協働事業を定着させるため、両者による地域住民対象の「学校図書館オープンデー」を1日間で開催する。</p> <p>地域住民の学校図書館利用を促進し、「地域にとって必要な学校図書館」にすることで、VEDCが学校図書館運営・支援に持続的にコミットすることを目的とする。オープンデーでは、図書館披露や図書館案内、図書館でのアクティビティ(図書を活用した</p>	3)

劇、図書紹介等)発表を学校(図書館担当教員、生徒)が担い、地域住民への広報・参加勧誘、利用促進を VEDC が担う。当日までの間に、学校の教員や生徒達は、1~2 年次及び 1-1 の研修で学んだことを各学校図書館で繰り返し実践したうえで、イベントを実施する。また VEDC と学校が協働してイベントを主催できるように、2-1 や 2-2 の活動で集まる機会を利用して、イベント準備のための打合せを実施していく。(成果 3 を十分に達成するために本活動を追加。)

オープンデーで研修成果を披露するために必要な、ペン、模造紙、テープ、色紙、パネル、コピー用紙などの消耗品を準備する。学校は十分な材料を所持していないことから、必要な教材を追加提供する。

3-2 対象校 3 校のいずれかを会場とし、3 校共催による交流イベントとして 3 日間の「学校図書館研究大会(仮称)」を開催する。

主催は、郡教育局・VEDC・学校からなる連絡協議会(仮称)を組織し、郡内での公認行事化・恒例行事化(年 1 回)を目指し、郡教育局-VEDC-学校で学校図書館を持続的に支えていく連携基盤を構築する。

プログラムの内容は、①授業・教科学習における図書活用事例発表会や②学校図書館サイン&展示コンテストなど、これまでの研修で学び、その後図書館や授業の現場で実践してきたことを発表・共有するとともに、学校図書館どうして交流し競い合い刺激を受けることで、教員や生徒の図書館活用の促進とその質を向上させる。

実施にあたっては、県教育局ならびに 2 郡の教育局と 3 校の VEDC 間での協議や調整を事前に行い、各機関が役割分担し開催準備をすすめる。当会は、各機関が役割を認識し自主的にイベント開催に参画し、機関同士が連携するようサポートする。

また地域への波及効果を狙い、イベントには、ポンホーン郡・ヒンプーフ郡内の当会が開設支援した 6 校の学校図書室担当教員にも参加してもらう。

大会において、授業における図書活用事例を発表する資料を作成するために必要な文房具について、学校側で準備できない分を提供する。

3-3 学校図書館・図書室間のネットワークの育成

対象 3 校ならびに同郡に所在する学校図書室 6 校で、Facebook などの SNS を活用したネットワークグループを開設する。各学校の活動状況の発信、図書館担当教員どうしでの情報交換、図書館運営や活動の課題を相談するなど、助け合える仕組みを作る。(活動 3-1, 3-2 の成果を安定的かつ持続させるために追加。)

3-4 3-2 のイベント実施後、記録集を作成する。記録集には、3-3 で紹介される良い活動事例なども掲載。500 部発行し、ビエンチャン県内の図書館・図書室・図書スペースを有している小中学校に配布する。当事業ならびにこれまでの当会活動で関係があり、図書館活動を把握している郡教育局スタッフから各学校へ配布してもらう。紙媒体の配布に加え、Facebook ページや SNS グループなどのソーシャルメディアを使ったイベントの報告・発信や啓発も併せて実施する。

4) 終了時評価

4-1 学校から提出された報告書から、図書館運営記録などをまとめ、さらに、担当教員や図書ボランティアの生徒、利用者の生徒にインタビューをおこない、利用状況に関するデータを集め、集計と分析をおこなう。これらのデータをもとに、校長、VEDC、郡教育局とともに、前年度に策定した運営計画通りに適切に運営されているかどうかを確認し、事業終了時評価を実施する。同時に、学校と VEDC が策定する次年度の図書館運営計画を確認する。終了時評価に合わせて、下田氏、小林氏、野口氏を派遣する。評価のインタビュー、集計と分析、会議の実施、それぞれの過程に必要な模造紙、テープ、筆記用具などの消耗品を準備する。

	<p>【事後調査に際しての訪問先】</p> <ul style="list-style-type: none">・ ビエンチャン県ポンホーン郡ポンサイ中等学校 学校図書館及び同校村教育開発委員会・ ビエンチャン県ポンホーン郡サカ中等学校 学校図書館及び同校村教育開発委員会・ ビエンチャン県ヒンフープ郡ヒンフープ中等学校 学校図書館及び同校村教育開発委員会・ ビエンチャン県ポンホーン郡教育スポーツ局・ ビエンチャン県ヒンフープ郡教育スポーツ局	
--	---	--

(ページ番号標記の上, ここでページを区切ってください)